

飼料用米の農産物検査規格が新たに登場

～26年産米から実施 規格は「合格」「規格外」2種類のみ

農水省は農産物検査規格検討委員会を開催し現在未整備となっている飼料用途米の農産物検査規格を討議、今年の7月前までに飼料用米の検査規格を告示する運びとした。提示案では、飼料用は流通実態として「うるち米」「もち米」の区分を行わず品種の区分も行わない。等級区分については食用と異なり等級区分も行わず「合格」または「規格外」との標記にする。合格品でなければ面積当たりの数量払いの助成金は支給されない。水分設定や量目や包装形態については現行の食用米と同じ規格にするようだ。現在流通している飼料用米は玄米流通が主であるが、養鶏向けでは粳のまま給餌させるケースが多い。また、豚・牛については玄米や粳を粉砕して給餌させるため「玄米」「もみ」の2種標記となった模様。WCS米については子実だけの給餌だけではないため検査規格設定から除外される見通しだ。食用米と異なり整粒歩合や容積重、胴割れや未熟粒の混入は問われない。被害粒は発芽粒・病害粒・芽腐れの三点が対象で比率は25%以下に抑えられていれば合格品となる。但し、問題として価格の安い、いわゆる「くず米」を混入させ、満額の補助金を詐取しようとするケースが出てくるのではないかという点だ。また、飼料用米の種子供給が不足していることから、県知事特認された多収性のある一般米や新規需要米の横流しも心配されており、については生産者や流通業者に対して誓約書や売買契約書の提出が農水省より義務付けられている。検査員の認定や整備についても今後必要となっており出来秋まで検査体制が整うか心配なところだ。飼料米検査元年、今年の動きに注目していきたい。

飼料用米の農産物検査規格「玄米」案	
項 目	設定規格
銘 柄	設定なし
量 目	麻袋及び樹脂袋：30 ^{kg} ・60 ^{kg} 紙袋：20 ^{kg} ・30 ^{kg} ポリエチレンフィルム：30 ^{kg}
荷造り及び包装	麻袋・樹脂袋・紙袋・ポリ袋
等 級	合格または規格外
水 分	15%以下
被害粒	25%以下
異種穀粒混入	もみ 3%、麦 1%、左記を取り除いたもので1%混入まで可
異 物	1%以下
規格外基準	異臭のある物、又は合格の品位に適合しないもの。異種粒及び異物を50%以上混入していないもの
その他	異物として土砂、石、ガラス片、金属片、プラスチック片の混入がないもの

企業の農業生産参入（第3弾）

企業と契約する農業生産法人の意見

今回は流通小売業者が農業生産法人に出資しているケースをご紹介します。関東の農業法人を訪ねた。当法人の耕作面積は4ha強、露地栽培では周年で白ネギ、春と秋にレタスを栽培、施設は業者の要望に応じて臨機応変に対応している。

編集局：現在の状況についてお聞かせください。

法人：今年は寒さと雪害の影響でネギ・レタスの生育が昨年より悪く定量出荷に苦労した。特に青果用のレタスに重さが乗らず加工用に回すしかないものが多い。昨年はハウスでトマトを栽培したが荷受け先からトマトの買入値段が合わず今年は行わない事とした。今年は2か月間だけ
(次ページへ続く)

(前ページより続く)

4～5月取りの無加温キュウリの栽培を要請されており、短期間でも経営に見合う栽培方法はないか検討しているところだ。

編集局：ネギとレタスを栽培されている理由についておきかせください。

法人：ネギは焼き鳥用のネギ間の原料で加工用のみ、レタスは青果・加工用での要請で栽培している。いずれも購入いただける単価が決まっているので投資金額も読みやすい。ネギの場合は通年供給のため茨城県で安定的に通年出荷出来る栽培方法を確立するのがポイントです。レタスは作ったものは青果がダメであれば加工用に転用も効くため絶対青果用を作らなければならないというわけではないので農場とすればレタスの場合加工用を栽培したほうが少し気は楽だという面がある。

編集局：土地は自社の圃場ですか。

法人：全てが地主より借り受けている。農地取得時は地元肥料店の協力で事務所の近くに農地を集約できており作業・管理効率は良い。

編集局：苦勞と感じている点があればお教えてください。

法人：安定的に出荷する責任があること。また、規格が決まっているためにその規格をうまく作りきることに気を使う。また、周囲にイノシシがいるため出荷間際にやられない方法がないか探しているところだ。

編集局：電熱線とか張るのはどうですか。

法人：張るまではいいのだが、その後の管理が大変。現在、囲いをしているが突き破られるので役に立たず弱っている。

編集局：今後の方針と肥料業界に期待することがあればお聞かせください。

法人：現状は荷受け先の出資比率が高いので要望にお応えすべく対応しなければならないのがプレッシャーとなっている。また、いざ出資を引き揚げられた場合は経営が立ち行かなくなるという不安が常にある。やはり、売り先の1本化ではなく市場以外の食品メーカーに売れるよう営業と開拓が必要と考えている。加工用に絞って複数社と契約が出来れば自立した経営ができるはずなので農作業と経営の両立が図られるよう資材メーカー・商社等に協力願うことも今後検討したいと考えている。

編集局：ありがとうございました。



2重トンネルした越冬レタス



地温をあげる工夫を凝らした栽培方法

流通小売業者より出資を受けて経営している農業法人の例をご紹介した。外部より出資を受けている農業法人は出資比率が高いほど荷受け先の影響力が強くなり、万が一出資を引き揚げられると経営が成り立たなくなるという危機感を持って運営されている点が興味深い。やはりどの分野でも危険分散が必要であるという事を肌で感じた次第であった。今回は法人代表の率直な意見や経営に対する考え方を述べて頂いたこと、ご本人の希望もあり農業法人名については伏せさせて頂きました（2月取材）。

当社本店にご来訪頂いたお客様から、いつも見えますとのお声を頂きました。ご愛読頂いている方から、直接お声掛け頂くのはとても有難く、また励みにもなります。いつも記事を探して頭を悩ませている編集委員の皆さんと一緒に、いい紙面作りに励みたいと思いました。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>